

今年も、夏の「人権教育セミナー」が始まりました！

今年度は、7月21日（木）～8月26日（金）までの約1か月間に10日間、計9講座が開催されました。21日におこなわれた、第1講座のようすを早速のぞいてみましょう。

第1講座 女性と人権

1 ワークショップ セクシャル・ハラスメント防止に向けて [高知労働局 雇用均等室長 大西ふみ子さん]

1. 講話「セクシャル・ハラスメント防止に向けて」

大西さんの専門分野は、男女の雇用均等と、女性の職業観啓発。しかし、相談業務や講演活動で、多くのセクシャル・ハラスメント（セク・ハラ）、スクール・ハラスメントなどの事象に出会い、「セクシャル・ハラスメントを防ぐ」という方向に問題意識を広げていったのだそうです。

？

「セクハラ」ってどういうこと？

個人の行動範囲や自由度を狭める、
基本的人権の侵害。
意識的接触や卑猥な言動、
外見上の特徴（容姿）に対する言動、
暴力的、性暴力的、性的な言動
長期型、常習型、対価型、密室型

セクハラは、相手がイヤと言えない状況下で

おこなわれる「嫌がらせ」



2. ワークショップ 事例について、意見交流

学校現場や教育関係機関で提起されたさまざまな事例について活発に意見交流が行われました。つい時間をオーバーしてしまいました。

でも、充実、充実。お昼を挟んで、グループでお話していた方も…。



2 講演 学校文化とジェンダー [東京学芸大学 教育学部 助教授 中澤智恵さん]

ー男女平等を基本とした教育は、今、どういった状況にあるのかー



学校におけるジェンダー観の変遷、そして「ジェンダーの再生産装置」としてではなく、人権尊重の精神を涵養していく場としての学校の在り方を、「隠れたカリキュラム」や、理系教科の学習意欲や能力の向上とあわせて、豊富なデータに基づいて講演していただきました。

参加者からは、非常に多くの質問が寄せられ、その応答に約40分をかけて丁寧に対応してくださった中澤さんに多くの「感謝の声」が返されました。

中澤さんによると「ジェンダーも、子どもたちの能力、可能性も、そして人権意識、人権感覚も『可変性』を持っています。性別役割観も変わっていくのです。」「『らしさ』は、何をもたらしてきたのか？」「学校は環境としての『隠れたカリキュラム』。常に周囲を見ながら相互に批判し、評価し合える仲間を増やすことが大切」等、多くのことが提起されました。

午前中の分科会の流れで気分的に高揚していたのでしょうか。最後のバスセッションも盛り上がりました！

大西さん、中澤さん、そして参加者の方々、おつかれさまでした！